

舞鶴港がラグジュアリーでゆったりと 落ち着いたヨーロッパのたたずまいに

京都府
舞鶴市



10月18日(金)フランスのポナン社が運航するラグジュアリー船『ル・ラペルーズ』が舞鶴港に初入港しました。今年のクルーズ船入港は4月18日の『ル・ソレアル』(フランス)に始まり、数えること33回。本船が最後の入港となります。初入港が最後の入港、最初で最後? 紛らわしい書き振りになりましたが、『ル・ラペルーズ』は全長約130メートル、重さ約1万総トン、乗客定員184名、乗組員110名と、普段よく入港する船と比べると、かなり小型のクルーズ船です。

入港当日はあいにくの雨模様となり、派手なおもてなしはありませんでした。また、濃紺と白に塗り分けられた綺麗な『ル・ラペルーズ』の船体がぼやけてしまいましたが、それはそれで何とも言えぬ幽玄なたたずまいを醸し出していました。

冒頭でラグジュアリー船と記述しましたが、何なの?と思われる方もいらっしゃるのでは、豆知識です。今回のクルーズの料金ですが、8日間で約61万円~となっており、1日当たり約7万円以上です。舞鶴ではおなじみの『コスタ・ネオロマンチカ』では1日当たり1万円以下の商品もあります。しかし、高さには理由があります。装備品や食事が豪華なだけではなく、提供するサービスの質が格段に違う点です。サービスの質はスタッフ1人につき乗客を何人接客するかに現れます。『ル・ラペルーズ』は1人で1.6人、『コスタ・ネオロマンチカ』は1人で2.9人を接客することになります。筆者はクルーズの経験はありませんが、体験してみたいものです。

今年の舞鶴港のクルーズシーズンは、ラグジュアリー船で始まり、ラグジュアリー船で締めくくられる、カジュアルクルーズだけではない、高級感漂うクルーズシーズンでもあったと言えます。さらに来シーズンは、待望の『クイーンエリザベス』初入港も予定しており、入港隻数も増える予定です。クルーズ船による舞鶴港のさらなるにぎわいが期待されます。